

令和8年5月19日

市政記者各位

福岡市美術館

令和8年度の「コレクションハイライト 2026-27」を開催します

福岡市美術館のコレクション展示室(近現代美術 A・C 及びロビー)では、年に1度、大規模な展示替えを行っています。

昨年度に引き続き今年度も、室内の空間を大胆に模様替えて、作品の魅力をご体感いただけるように工夫します。また、展示室入口も、明るくわかりやすいイメージに改装します。

つきましては、新しい「コレクションハイライト」の広報にご協力をお願いいたします。

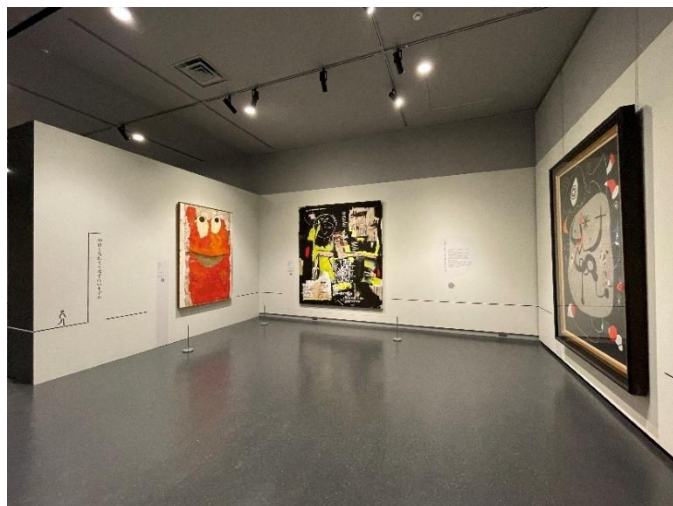
コレクション展
(近現代美術)

コレクションハイライト 2026-27

「コレクションハイライト」とは、16,000点以上に及ぶ当館のコレクションから、20世紀以降の近現代美術の優品を通年展示する企画です。

今年度は、テーマも表現方法も広がった戦後から現代までのアートの展開を、創造と破壊、生と死など対になる視点から紹介します。各作品は、混迷を深める今日においても、強いメッセージを発しています。

(令和7年度の展示風景)



◆展示室 A:「花と銃—予測不可能な地球に生きる」



最初の部屋には、インカ・シヨニバレ CBE の《桜を放つ女性》を1点展示します。花と銃は、平和と暴力、創造と破壊、生と死を表象しており、展示全体のテーマを伝えます。

インカ・シヨニバレ CBE 《桜を放つ女性》2019年

◆展示室 C 及びロビー:「マイナスからプラスへ—予測不可能な地球に生きる」



モナ・ハトゥム《+と-》1994/2024年

当館は、2024年に、モナ・ハトゥムの《+と-》を、コレクション室の各部屋をつなぐロビーに恒久設置しました。この作品は、タイトルから連想されるように、陽と陰、生と死、創造と破壊など両義性をそなえたものです。そして、それが鑑賞者に贈るメッセージは、どんな困難の後にも平穏が巡ってくるという希望です。展示室 C では、マイナスのイメージを含む作品群からプラスのイメージが濃い作品群へと、マイナスからプラスへと至るストーリーで展示を構成します。C 室の各エリアのテーマは下記のとおりです。

- ① 怒りのるつぼ—暴力・矛盾・混沌
- ② 静かなる聖堂—祈りの絵画
- ③ 生命いずるところ—アニッシュ・カプーアとオチ・オサム宇宙
- ④ 共生の明日へ—飛翔・調和・対話

注目ポイント

清新な展示空間での体験、明るく変わる入口

普段はシンプルな空間を生かしている近現代美術室。今回は、1つ目の展示室 A と、C 室の一部を大胆に改装して、作品が引き立つ空間を演出します。

また展覧会を案内する屋外看板を増設し、展示室入口も期待感を膨らませるデザインに変更します。

お知らせ

作品の写真撮影と音声ガイドについて

コレクション展示室では、私的利用に限り、作品の写真撮影が可能です。撮影の際はルール・マナーを守り、周りのお客様にご配慮いただくようお願い申し上げます。

「コレクションハイライト 2026-27」の展示作品全点で、音声ガイド(日・英・中・韓)をご利用いただけます(ご利用には、ご自身のスマートフォンとイヤフォンが必要です)。

会期	令和8年7月4日(土)~ 通年展示 ※A室は6月30日(火)~
会場	2階コレクション展示室 近現代美術室 A・C 及びロビー
開館時間	午前9時30分~午後5時30分 (7月~10月の金・土曜日は午前9時30分~午後8時) ※最終入場は30分前まで
休館日	毎週月曜日、年末年始(12月28日~1月4日) ※月曜日が祝日・振替休日の場合はその後の最初の平日
観覧料	一般200円(150円)、高大生150円(100円)、中学生以下無料 *()内は20名以上の団体料金

【問い合わせ先】

経済観光文化局 美術館学芸課 (担当: 後藤、ラワンチャイケン) TEL:092-714-6051